街道とまちづくり

第48回

奥能登絶景海道

歴史や伝統文化、自然、そして笑顔に巡り会えるまち

輪島市長（石川県）梶文秋

豊富な観光資源

輪島市は、日本海に突き出た能登半島の北端に位置する、人口約2万5000人、面積約426㎢、山地が市域の8割以上を占める、極めて平地の少ない地方都市である。本市の海岸線や市街地を通過する奥能登絶景海道は、能登半島の内側の波穏やかな内浦地区と、冬の厳しい日本海の荒波が形成した断崖地形からなる勇壮な外浦地区との対照的な絶景を臨みながら、奥能登を周遊する街道である。この街道の特徴は、何といっても沿線に擁する観光資源の豊富さにあり、その一部をここで紹介したい。

国指定名勝「白米の千枚田」

まず、隣接する珠洲市から本市に入ると、板状の岩の真ん中に直径2mほどの穴が開いている奇岩「窓岩」が目に入ってくる。ここ町野町には、平安時代、壇ノ浦の戦い後、能登の地に配流された大納言・平時忠を祖とし、国の重要文化財や名勝に指定されている「上時国家」や「時国家」が並び建っており、平家伝説を今に伝えている。ここから車で10分ほど西に向かうと、街道と日本海の間の急峻な地形に、多くの小さな田んぼが現れる。先進国で初めて国連食糧農業機関の世界農業遺産に認定された、「能登の里山里海」を代表する「白米の千枚田」である。その名のとおり1004枚の田んぼが連なり、国の名勝にも指定されている。

市街地に入ると、360mの市道に約200の露店が並ぶ「輪島朝市」が、正月三が日と毎月2回の定休日を除く全ての日の午前中に開催されている。この朝市は日本三大朝市に数えられており、明確に記した史料はないが、その歴史は1000年以上も前から続いているとされている。

大本山總持寺開創700年

ほかにも、本市の基幹産業で日本を代表する伝統工芸「輪島塗」や、日本遺産第1号として認定された「キリコ祭り」など、紹介し出すと枚挙にいとまがない。それでも今回、多数の観光資源の中から取り分けて紹介したいのが大本山總持寺祖院である。

大本山總持寺は、元亨元（1321）年に瑩山紹瑾禅師が開創した曹洞

開創700年を迎える大本山總持寺祖院

宗の大本山で、明治時代末期に大本山としての布教伝導の中心を横浜市鶴見区に移したが、曹洞宗を全国に広めた歴史ある寺院は、大本山總持寺祖院として今も本市の門前町にその姿を残し、多くの僧侶が修行生活を送っている。本年（令和3年）は、開創700年という節目の年であり、開創の地である同祖院において700年記念行事が執り行われる。

また、時を同じくして、能登半島地震による被災から同祖院の復興工事がこの春完了し、併せて落慶法要が執り行われた。今後も寺院の諸行事に併せて、地域協議会などが中心となり開創700年を記念するさまざまなイベントが予定されている。

1000年以上の歴史を有する「輪島朝市」

ライダーを笑顔で歓迎する都市

これまで、街道が沿線に擁する歴史や伝統文化、自然などの観光資源を紹介してきたが、ここで、より多くの皆さまにこれらの観光資源を訪れてもらうことを目的として、本市が新たに取り組んでいる「輪島市RIRES（リールズ）事業」を紹介したい。RIRESとは、Riders・Rest・Spot（ライダース・レスト・スポット）の頭文字をとったもので、仏語で「笑い」を意味する。この事業では、バイク冒険家の風間（かざま）深志（しんじ）氏を専門アドバイザーとして「輪島市モーターサイクル親善大使」に任命するとともに、本市が「ライダーを笑顔で歓迎する都市」であることを宣言し、市内の道の駅や公共施設に専用・優先駐輪場や携帯電話の充電コーナーを設けるなど、本市を訪れるライダーを歓迎する環境を整えており、新たな来訪者の増加に期待を寄せている。

最後に、現在、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、全国的に人流を抑制する取り組みが続いているが、今後、日本がこの逆境を克服した暁には、それぞれの街道を通じた地域間の交流が復活し、全国のまちににぎわいが戻ることを期待するばかりである。

街道の沿線に設置されたライダーを歓迎する看板

一口メモ　奥能登絶景海道

中世の歴史文化を伝える外浦街道

能登半島は、天正9（1581）年に前田利家が織田信長から能登国を与えられて以降、後の幕府領を除き、江戸時代を通して加賀藩領となった。間もなく、利家は能登国から加賀国金沢へと拠点を移したが、城下町金沢と能登は、北国街道の追分である津幡（つばた）宿を起点とする能登街道で結ばれていた。

津幡宿から北上した街道は、今浜宿（宝達志水町（ほうだつしみずちょう））で内浦街道と外浦街道に分岐。輪島へと至る外浦街道は能登半島西側を通り、海路ともつながるこの道を通じて人や物資の往来が盛んに行われた。

半島内の道路整備が進む中、海沿いの絶景をつなぐ観光交流の道・奥能登絶景街道も生まれている。

企画協力：全国街道交流会議「街道交流首長会」